

公共事業等の景観形成指針と色彩

6-1-1 公共事業等の景観形成と色彩

まちなみの景観は、公共的空間と私的空間によって構成されています。熊本らしい色彩景観を実現するためには、公共的空間を管理する行政と、私的空間を管理する県民が協力してこれに取り組む必要があります。

とりわけ、公共的空間は、人々の活動やふれあいが多く、地域の環境を形成するうえで極めて大きな役割を担っています。

公共事業等を実施する際には、地域の景観に配慮し、地域の顔として周辺を先導する優れた色彩設計を行う必要があります。

6-1-2 公共事業等の景観形成指針

熊本県景観条例では、公共事業に関しては届出を要しないこととしていますが、『公共事業等景観形成指針』を定め、国、県、市町村等はこれを遵守するよう求めています。

『公共事業等景観形成指針』では、施設別の景観形成指針を設けています。このうち、

- 1—道路(高架橋、歩道・自転車道、歩道橋)
 - 2—橋りよう(本体、高欄・照明施設等)
 - 3—河川(樋門)
 - 4—港湾・漁港(建築物)
 - 5—都市公園等(施設、建物)
 - 6—公共建築物(建築物、門・塀、附帯施設)
- などについて、色彩に関する指針を設けていますが、その主旨は、「地域の特性をいかし、周辺景観との調和に配慮すること」に集約することができます。

6-1-3 公共事業等の色彩設計にあたって
公共事業等の色彩設計における基本的な視点を、次の表に整理します。

■表 公共事業の色彩設計に求められる基本的な視点

視点	内容・主旨
一貫性への配慮	○一貫性の流行にとらわれない。 ○担当者が変わってもその主旨が継承されるよう色彩設計のプロセスと根拠を明らかにする。
公共性への配慮	○色彩設計の考え方や過程を明らかにし、住民にその合理性を理解してもらい協力を得る。 ○住民の意見を取り入れ、民主的な手続きで設計を進める。
総合性への配慮	○計画対象の位置づけや地域との関わりを総合的・相対的に考える。 ○個と全体のバランスを考える。 ○行政内部に協力・連携機構をつくる。

公共事業等の色彩設計プロセス

「表 公共事業の色彩設計に求められる基本的な視点」で整理したように、公共施設の色彩設計においては、そのプロセスが重要になります。ここでは、一般的な公共建築物の色彩設計の流れをフローチャートとして整理し、同時に各段階の内容や配慮事項などを例示します。

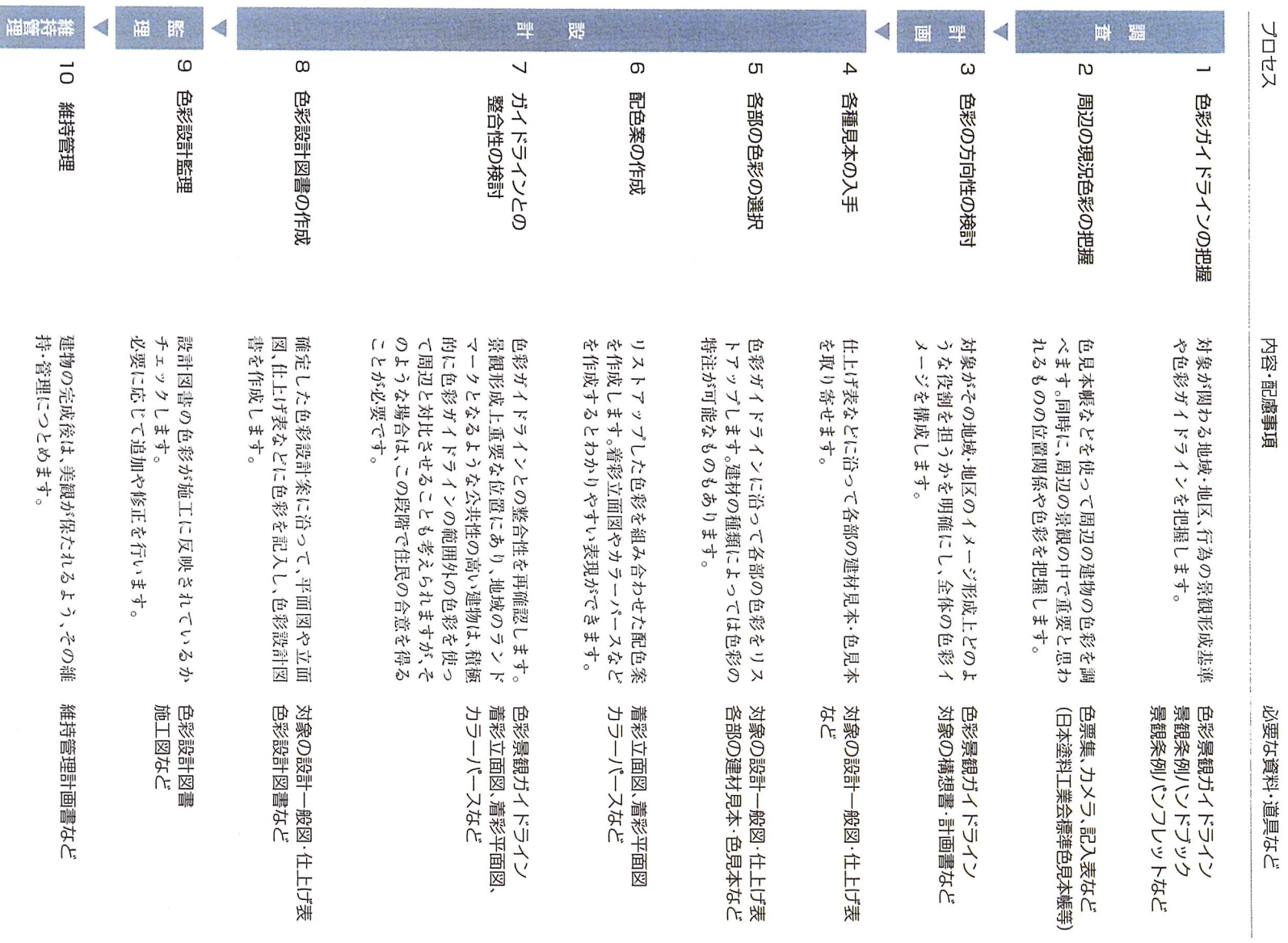
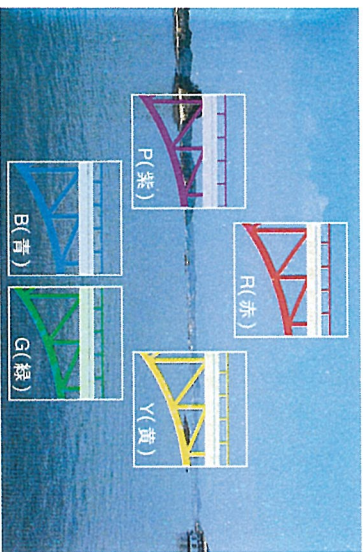


図 公共建築物の色彩設計の流れ

公共事業の色彩設計事例

ここでは、『公共事業等景観形成指針』によって、特段の配慮が求められている、橋りようを例にとって色彩設計の考え方を解説します。

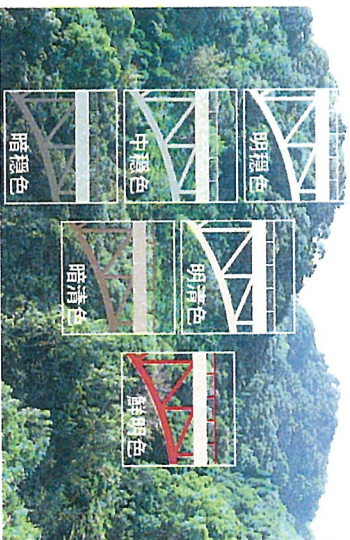


■ 図 背景となる景観と橋りようの色相—海浜部

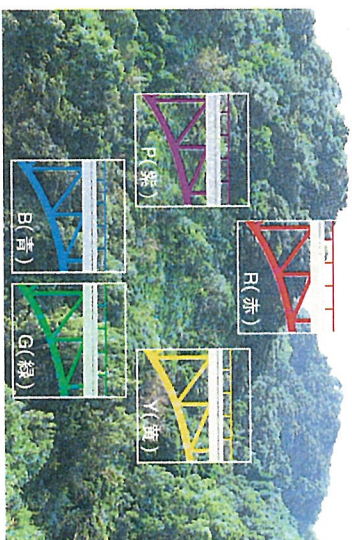
山間部ではやや暗めの基調色

山間部では、アーチ橋の主構部や垂直材、斜材などに、G(緑)系色相の暗穏色を用い、全体をやや暗めに抑えて、背景との融和を図っています。

また、背景と融和させながらも、存在感や軽快感のあるデザインとすることを意図し、桁の色彩は主構部よりもやや明るい中穏色にしています。



■ 図 背景となる景観と橋りようのトーン



■ 図 背景となる景観と橋りようの色相—山間部

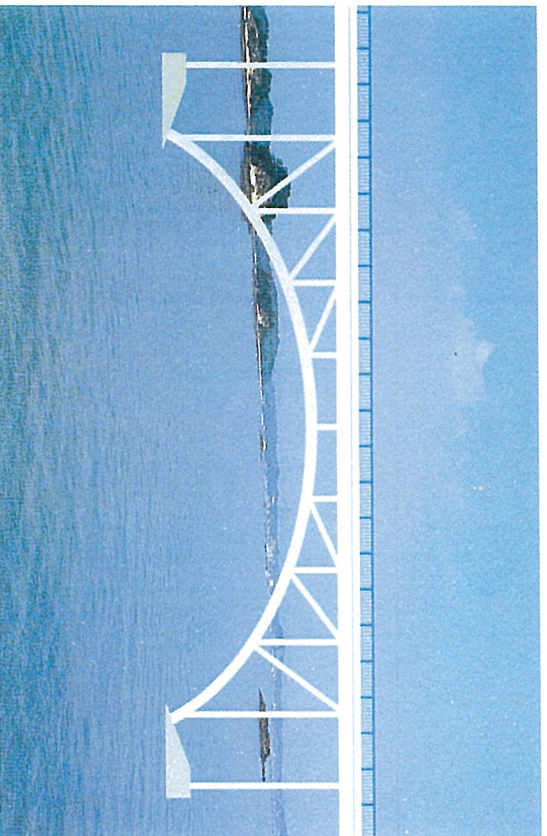


■ 図 山間部に架設される橋りようの色彩設計例

海浜部では明るめの基調色

海浜部の色彩設計例では、B(青)系色相の明穏色を中心とした明るめの色彩によって、さわやかさと軽快感のあるデザインにまとめています。

日差しが強い熊本の海浜部では、塗料が退色しやすいので、高欄などメンテナンスが容易な部分を除いては、退色の影響を受けにくい低彩度色でまとめることが基本といえます。



■ 図 海浜部に架設される橋りようの色彩設計例

● トーンの設定

背景よりも低彩度が基本
鮮やかさを抑えた明穏色や中穏色、暗穏色などのトーンを基調にすると、背景との対比が小さくなり、環境融和型の色彩設計になります。

逆に、鮮明色を基調にすると周辺環境とは対比的な色彩設計になります。
橋りようの色彩は背景と同等か、それ以下の鮮やかさであることが基本です。

鮮やかな色彩は、特別な象徴性をもたせるときなどに限って使用するようになります。

● 色相の設定

背景の色相とあわせるのが基本
空や海が背景となる海浜部ではB(青)系、樹林や山はだが背景となる山間部ではG(緑)系が、背景となじみやすい色相といえます。

ただし、全体のトーンが抑えられていけば、色相の違いはそれほど強く意識されないのでしよう。

- アーチ主構部など一
35-40B(5GY4/1)
- 桁一
37-50D(7.5GY6/2)
- 高欄一
37-50L(7.5GY5/6)

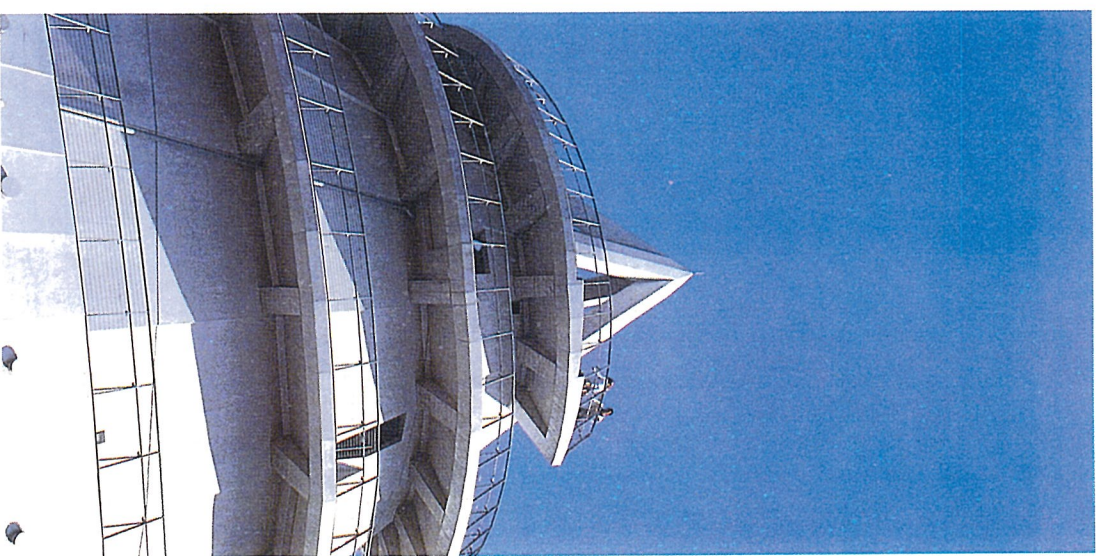
- アーチ主構部など一
(2.5PB7.5/0.5)
- 桁一
(2.5PB8.5/0.5)
- 高欄一
75-30P(6PB3/8)

色彩に配慮した公共建築物

●地域の景観形成を先導する公共建築物
公共建築物は、地域の顔として周辺の民間事業を牽引するようなものでなければなりません。色彩設計にあたっては、地域の特性を十分に把握するとともに、地域の景観を今後どのように誘導するかという明確な方針を打ち出すことが必要です。さらに、色彩ばかりでなく地域の素材や工法などにも理解を深め、それを積極的に活用していくことで地域の活性化を図っていくことも必要といえます。



1



2

●1ー熊本県庁は、YH(黄赤)系やY(黄)系の基調色相をもつ熊本市街の色彩環境を的確に把握して、暖色系の明穏色や中穏色などでまとめられています。周辺に散見される、やや彩度の高い色彩の建物に対して、熊本市街での色彩のあり方を発信しています。

●2ー宇城市・三角港フェリーターミナルは海辺の明るい色彩環境に映える、コンクリート打ち放しウレタン塗装仕上げで外観を構成しています。シンプルな配色によって、螺旋形の特徴的な形態がもつ象徴性が高められています。

●3ー八代市・石匠館は地元の石材を外装材に利用し、周辺の自然環境との同化を図っています。地域の素材を積極的に活用することで、色彩ばかりでなく、素材の面でも地域の景観をつくる新しい建築物のあり方を示しているといえます。



3